



火災が起きた柏崎刈羽原発
地下トンネルの電力ケーブル
ルの溶けた箇所（白、新潟
県（東京電力報道資料から）

柏崎刈羽原発で火災

東電 非常用電源のケーブルから

1日午前6時半ごろ、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の敷地内で、地下にあるトンネルから煙が出ていたのが見つかりました。トンネル内で非常用電源と7号機をつなぐケーブルの継ぎ目が一部溶けていたことが、柏崎市消防本部は火災と判断しました。同本部によると、現場では直径4センチほどのケーブル3本が約30センチにわたって焼損しているのが確認されました。原因については調査中として、東電は同日午後、記者会見を開き、電力ケーブルの継ぎ目で電流が過大になり、発熱したことを明らかにしました。このケーブルは、普段は使用していませんが、7号機内での作業のため、9月7日から通電していました。2016年に敷設して以降、目視点検はしておらず、トンネル内に消火設備もないといいます。法令違反はないとしています。